

相国寺御用達

京名菓 雲龍

雲龍は、俵屋吉富の七代目店主が相国寺所蔵の「雲龍図」(狩野洞春筆)に感銘を受け、うねる雲間を飛翔する力強い龍の姿を表現し創作した一世の名菓です。

大粒の丹波大納言小豆をはじめ、吟味を重ねた最高級の素材を用い、現在も変わらず、熟練された職人の手で、一本一本丁寧に作りおりました。

大切な方への心を込めた贈り物に、京名菓 雲龍をどうぞ...



京菓子司 俵屋吉富

本店

京都市上京区室町通上立売上ル

電話 ☎ 43212211 ☎

烏丸店

京都市上京区烏丸通上立売上ル

電話 ☎ 43213101 ☎

圓明

平成二十八年

正月号(第一〇五号)

相国寺東京別院
方丈・客殿 落慶記念号

大本山相国寺
相国会本部



まるにくん
© 2016 相国寺

◆表紙写真

完成なった相国寺東京別院

平成二十四年七月の庫裡落慶ならびに方丈・客殿地鎮起工式、同二十五年十一月の方丈・客殿上棟式、そして三十回を越える建立工事の会議を経て、去る二十七年十一月十六日に落慶法要を迎えた東京別院方丈・客殿玄関



歳旦祝語

管長 大龍窟 有馬頼底

平成二十八年

歳旦

月に逢い、花に逢い、去来を愧じる

新年の仏法、寒梅に属す

若し人有つて、山僧底を問わば

打睡工夫、八十三

大龍叟

幾月幾花移り替り、去来するを愧し入る。
新年あらたな仏法は、寒梅が知つていよう。
若し人あつて、お前はどうかと聞けば、
打睡し工夫しながら、八十三となつてしまった。



東京別院山門



東京別院 方丈・客殿 玄関



東京別院 方丈・客殿外観(庫裡棟より望む)



東京別院御本尊 釈迦如来坐像

祝

相国寺東京別院
方丈・客殿落慶



江戸消防記念会先導のもと一山出頭



山門より境内へ入堂



有馬管長御出頭



「木遣(ぎやり)」披露



建物内に響き渡る木遣り衆の声



祝語に続いて法要厳修



法要の飾りつけ



法要会場

平成二十七年十一月十六日
東京別院 方丈・客殿
落慶法要 並びに祝宴

写真撮影(4〜6ページ)：小寺良行 / 中島撮影事務所



法要前 応接室にて(有馬管長祝下と小林老大師)



法要後の有馬管長挨拶



御本尊開眼諷経



参列者焼香



御寄贈の絵画披露

祝宴

於 グランドプリンスホテル新高輪

(写真撮影：教学部)



有馬管長挨拶



観世清和氏による舞囃子「高砂」



方丈・客殿工事報告



感謝状・記念品授与



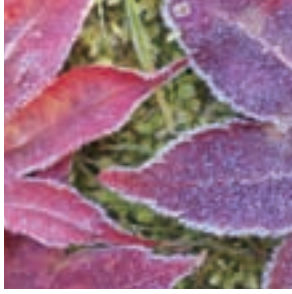
謝辞を述べる佐分宗務総長



来賓の方々と共に落慶を祝う



記念写真



目次

カラグラフィア◎祝 相国寺東京別院 方丈・客殿 落慶 2

◎東京別院 方丈・客殿 落慶法要並びに祝宴 4

年頭御挨拶 10

年頭御挨拶 14

年頭御挨拶 18

相国寺東京別院 方丈・客殿落慶法要次第 22

相国寺東京別院 方丈・客殿建立工事について (株)水澤工務店 黒野秀浩 24

仏道定款 大通院 相国寺専門道場師家 小林玄徳 37

観音懺法会を彩るもの―三十三観音図と動植繙絵―(最終回) 立島敦子 42

いただきます 演劇塾 長田学舎 河田洋志 48

本山だより 57

坐禅会のご案内 57

教区だより 65

教化活動委員会活動報告 68

相国寺史編纂室だより 76

京の冬の旅 非公開文化財特別公開 78

春の京都禅寺一斉拝観 90

訪中団のご案内 92

相国寺 春の特別拝観 93

宝物拝見「若松猿図」 94

承天閣だより「岩澤重夫展・後期」「森田りえ子展」 95

カラグラフィア◎第四教区長福寺 第二十二世 武田典英新任職晋山 99

心のすがた 100



内局

相国会総裁 有馬 頼底
 副総裁 佐分宗 順
 会長 片岡 匡三
 本部長 矢野 謙堂

管 承天閣美術館名誉館長 有馬 頼底
 宗 務 部 長 豊光寺住職 佐分宗 順
 教 学 部 長 大光明寺住職 矢野 謙堂
 庶 務 部 長 慈雲院住職 草場 周啓
 財 務 部 長 普廣院住職 山 木 雅 晶
 法 務 執 事 眞如寺住職 江 上 正 道
 教 学 ・ 庶 務 部 員 豊光寺副住職 佐 分 昭 文
 財 務 ・ 庶 務 部 員 養源院住職 平 塚 景 堂
 同 事務局長 長栄寺住職 鈴 木 景 雲
 同 参 事 養源院副住職 平 塚 景 山
 同 鹿苑寺執事長 林光院住職 澤 宗 泰
 同 執 事 是心寺住職 和 田 賢 明

慈照寺執事長 桂徳院住職 小 出 量 堂
 同 執 事 慈照院副住職 久 山 哲 永

宗 議 会 議 員
 第一教区 長得院住職 緒 方 香 州
 第二教区 竹林寺住職 牛 江 宗 道
 第三教区 福圓寺住職 大 谷 昌 弘
 第四教区 東源寺住職 角 野 元 保
 第五教区 正善寺住職 穎 川 孝 生
 第六教区 本誓寺住職 芝 原 一 三

宗 務 支 所 正 副 長
 第一教区 養源院住職(正) 平 塚 景 堂
 第二教区 林光院住職(副) 澤 宗 泰
 第三教区 竹林寺住職(正) 牛 江 宗 道
 第四教区 本派庶務部長兼任 平 塚 景 山
 第五教区 正善寺住職(正) 穎 川 孝 生
 第六教区 本誓寺住職(副) 田 中 太 真
 第六教区 感應寺閑栖(正) 芝 原 一 三

U R L <http://www.shokoku-ji.jp>
 E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)



謹奉賀新年



管長 大龍窟 有馬頼底

新年明けましてお目出度う存じます。

昨年「集団的自衛権」が国会で容認されたことに対して、私たちは宗教者として「戦争や暴力を許さない」という宗教的精神にもとづき強く反対し、これを廃案にせねばならないという運動に力を集中せねばと思います。

昨年の十月十日、相国寺東京別院に本尊の釋迦如来像が奉安されました。これは平安仏所の江里えり康慧こうけい仏師による截金の像であります。続いて十一月十六日に落慶法要が厳修され、本派永年の念願でありました首都東京での教線拡張の拠点として大いに活用したいと思っております。各末寺、檀信徒の皆様にも大いに利用していただきますようお願いいたします。

承天閣美術館では、前回の「伊藤若冲と琳派の世界展」が、連日の大入りで、若冲と琳派の人気は今だ衰えず、今年若冲生誕三百年にあたり、相国寺から明治天皇に献上され、宮内庁から複製の作成を許可された、『動植綵絵』どうしよくさいえ三十幅をも展示する予定であります。これらの一般公開は、はじめてであります。

昨年の岩澤重夫先生の展示に続き、今年森田りえ子展を開催します。岩澤先生には鹿苑寺客殿の襖絵、森田先生には、同じく方丈杉戸絵にそれぞれ健筆を振っていただきました。どうか多くの方の御清覧をお待ちしまして御挨拶いたします。





本派寺院、相国会会員並びに各寺檀信徒の皆様、明けましておめでとございます。

昨年は、建設中であつた相国寺東京別院の方丈、客殿が無事に完成いたしました。すでに完成し、坐禅会場として利用していた庫裡と併せて、十一月十六日、盛大に総合落慶式を厳修することができました。ご本尊には、江利康慧氏作成による釈迦如来像をお迎えし、宗議会議員をはじめ相国会、相楽社御用達会の役員の皆様方、また多くのご縁のある方々のご臨席を頂き、新しく完成した方丈、客殿を御披露することができましたことは誠に慶ばしい限りであります。

この別院は平成十三年（二〇〇一）、有馬頼底管長のご懇意であつた元古美術商（株）相模屋美術店社長、故原田吉蔵氏の邸宅を譲り受け、相国寺東京別院、金閣寺道場、京都仏教会東京事務所として出発しました。

ここに管長の念願であり、同時に大津樞堂、梶谷宗忍歴代管長の夢でもあつた首都圏における布教の拠点が実現することになりました。また古都税問題以来、京都の景観問題、宗教法入法改訂反対運動など、宗教と国家の問題や様々な現代社会の問題を真剣に取り組んできた、有馬管長が理事長を務める京都仏教会の首都圏における活動拠点作りの第一歩を踏み出したのです。

以来、東京別院は管長と本派専門道場の老大師による月二回の

坐禅会を続けてきたわけですが、建物の老朽化が激しく、安全性の問題もあり、平成二十三年（二〇一一）建替に着手致しました。この間、江上泰山師、山木康稔師の二人の宗務総長とその事務局のご尽力があつてこの日を迎えることができました。その功勞に感謝し、その後を引き継いだ私どもの責務は、この建物を宗教施設として維持管理に努めることはもとより、当初の目的に沿つて地道な活動を続けて参りますので、皆様のご理解とご協力を願う次第であります。

さて現代社会に目を向けますと、昨年パリで起こつた、ISIS（イスラム国）の爆破テロは世界に大きな衝撃を与えました。人種や宗教による差別と偏見によつて、多くの貧困層を作り出し、経済的にも社会的にも未来の希望が持てず、絶望を強いられた人たちがその怒りの矛先を国家に向けました。それは日本に

とつても対岸の火事とはいえません。日本の社会で拡大している経済格差や労働環境の悪化は、私たちの生活を圧迫し、精神に影響を与え、差別や偏見を招くという悪循環を起こし、ISIS（イスラム国）のようなテロ集団につけいる先を提供することになるでしょう。

このような現代社会の抱える問題に対し、その根源を直視し、立ち向かうことが現代社会に生きる宗教者として求められているのではないのでしょうか。私たち仏教徒として、ともにこの困難に目を背けず立ち向かう勇氣を持ちたいと思います。臨濟禪師の遠諱を前に我々の真価が問われています。

本年も相国寺派のさらなる発展と皆様のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。



賀春

有馬頼底管長猥下はじめ、本派寺院御住職並びに相国会会員、檀信徒の皆様、謹んで新年の御祝詞を申し上げます。

昨年は、地球環境悪化のせいも、度々の気象変動による大型台風や豪雨、洪水など予測不可能の災害に度々襲われ甚大な被害を被りました。被災された多くの皆様のお苦しみいかにばかりか、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を祈念してやみません。

私は相国会会長を拝命して、今年で丁度十年になります。去る日、有馬頼底管長猥下よりお電話をいただきました。「急逝された伊東祐治会長の後を継いでもらいたい。」と、突然のことでした。伊東氏が寺門隆盛の為、長年盡力されてこられた後だけに、私にこのような大役が勤まるか不安ではありましたが、お引き受けしました。この間、貴重な体験をさせていただきました。とりわけ次の三点は、深く心に刻まれた経験でした。

一、相国寺の観音懺法

会長を拝命した年、平成十八年に足利義満公六百年御遠忌記念「特別企画公演」が行われました。大阪文楽劇場に於て九月十六日午後六時より管長猥下以下十七名全員によって厳修されました。

「勧請」に始まり、「奉送」まで威儀斉整、清雅な観音経の唱和。「磬」「太鼓」「鉞」が一つに融けあった不思議な響き。幽艶な気の漂う舞台でした。開山夢窓国師以来ひたすら伝統を守り、古式を尊重し、練磨して今日に至った「声明」です。二時間半懺法三昧。忘我の境に包まれ、強く感動しました。

二、承天閣改築工事落慶法要

平成十九年には、承天閣美術館の増改築工事落慶法要があり、伊藤若冲特別展が開催されました。法要の後、林英哲氏による和太鼓奉納が法堂で演じられました。世界一流の大太鼓ソロイストの奏法に酔いました。その後、若冲画伯

の最高傑作である「釈迦三尊像」「動植綵絵」を拝観しました。どの作品からも視覚から聴覚にまで不思議な感覚で訴えかけてくるものを感じました。澄みきつた鋭い「心の眼」で対象を捉え、微妙で複雑な色彩の味を綿密、鮮明に描ききつているところに神秘的な世界を見る思いがしました。唯ただ佇立して時を忘れ拝観しました。

三、管長のほほえみ

有馬頼底管長猊下の御親教は、平成十五年十月第六教区鹿兒島観音寺に始まり、平成二十六年九月第一教区京都本山の方丈に於て御親教と閉講式が行われました。十二年間にわたり全国九十三ヶ寺の御親教が無事修了しました。この度の御親教は、管長御就任以来の御懸案であったと承っています。お喜び一人のことに存じます。管長は、飄飄乎とした温容で品格の漂う、慈眼にみちた「ほほえみ」で全国の檀信徒の前に立たれました。信徒一同は、合掌して温かくお迎えしました。管長は、炯炯たる眼光を内に秘め、大慈悲心をもって、優しい「ほほえみ」を絶えず湛えながら「禅の道」を、「平和の希求」を諄諄と説かれました。信徒一同は、心に響く一言、一言を味わいながら信仰人としての至福の一時をもちました。管長の厳しい禅指導者の「大誓願」に直接触れたことで、人として、この混

迷の世を生き抜く「勇氣」と「指針」とを、しっかりといただいたに違いありません。宗務総長をはじめ関係者御一同の御配慮のお蔭で無事めでたく修了いたしました。ありがとうございます。

今回、私は、全六教区の総代を代表して「謝辞」を述べさせていただきました。光栄の極みであり、心から感謝申し上げます。

さて、昨二十七年には、十月二十一日相国寺開山夢窓国師毎歳忌法要が厳修されました。今年もまた、鹿兒島、島根、福井から大勢参詣されました。法要後、「般若心経」を唱和し、すがすがしい満ち足りた気持ちで帰郷されました。

また、十一月十六日には相国寺「東京別院」の方丈と客殿の落慶法要が厳修されました。その後、落慶を祝して「二十六世観世宗家」観世清和様のお能が上演されました。この別院の誕生が檀信徒の新しい修養の場として、命のふれあいの輪を一段と広げることを祈ります。

最後になりましたが、今年も心の平安を求めて、真面目に「今」を生きていこうと考えております。宜しくお願いたします。

相国寺東京別院 方丈・客殿落慶法要次第

日時 平成二十七年十一月十六日(月) 午前十一時より

会場 相国寺東京別院 方丈・客殿

江戸消防記念会有志十三名先導により本山一山並びに本派寺院と導師入堂

引き続き、庭園にて江戸消防記念会 祝いの「木遣り」披露

- 一、導師祝語
- 二、釈迦如来開眼諷經
般若心經・消災呪、回向
- 三、東京別院 方丈・客殿落慶諷經
大悲呪、回向
- 四、挨拶 有馬頼底管長
- 五、寄贈絵画披露 相模屋美術店様寄贈「日本画」
- 六、記念撮影

方丈・客殿落慶 祝宴 午後一時より

会場 グランドプリンスホテル新高輪 天平の間

- 一、二十六世観世宗家 観世清和氏 舞囃子「高砂」
 - 二、挨拶 有馬頼底管長
 - 三、感謝状・記念品授与
株式会社 水澤工務店様
一般財団法人 建築研究協会様
京仏師 江里康慧様
 - 四、工事報告 建築研究協会 藤本春樹様
 - 五、祝辞 水澤工務店社長 水澤孝彦様
 - 六、乾杯 澤 宗泰 鹿苑寺執事長
- 開宴
- 七、謝辞 佐分宗順 相国寺派宗務総長

終了

相国寺東京別院 方丈・客殿建立工事について

(株)水澤工務店 黒野秀浩

◆はじめに

相国寺東京別院方丈客殿建立工事は、平成二十三年七月から四年二ヶ月の工期を経て平成二十七年九月末予定通り竣工を迎えました。

本稿では、この度の工事の経過とその過程を報告します。



解体前の東京別院(旧原田邸) 平成24年4月



起工式 平成24年7月



礎石工事 平成25年5月



素屋根工事 平成25年7月



建て方 小屋丸太組 平成25年9月



上棟式 平成25年11月



上棟式 平成25年11月



屋根工事 瓦葺き 平成26年4月



素屋根解体 平成26年8月



山門建て方 平成27年1月



山門築地塀工事



完成 平成27年9月



◆建築概要 方丈客殿

- 延べ面積 百五十坪
- 主要構造 木造平屋建て
- 主要構造材 吉野檜
- 基礎 ベタ基礎
- 礎石 稲田石
- 屋根 いぶし棧瓦(三州瓦) 下葺き サワラ柿葺き
- 壁 竹木舞下地 土壁 漆喰仕上げ

◆経過経緯

- 山門・築地塀 櫻・吉野檜
- 主要構造材 ベタ基礎
- 基礎 稲田石
- 礎石 いぶし本瓦(三州瓦) 下葺き サワラ柿葺き
- 屋根 竹木舞下地 土壁 漆喰仕上げ
- 壁
- 着工 平成二十三年六月二十八日
- 木材調達 平成二十三年十月
- 起工式 平成二十四年七月
- 既存建物解体 平成二十四年九月～十一月
- 老木紅梅白梅移植 平成二十五年一月
- 基礎・土工事 平成二十五年二月～四月
- 礎石工事 平成二十五年五月
- 仮説・素屋根工事 平成二十五年六月～平成二十六年八月
- 上棟式 平成二十五年十一月
- 屋根工事 平成二十六年二月～七月



海老虹梁加工中



足固め仕口の確認1



原寸図作成



斗組の加工



足固め仕口の確認2



原寸図確認



千両役者 書院化粧桁 全長12m



足固め仕口の確認3



小屋丸太仮組

◆木工事の経緯(建て方までの準備工事)

左官工事
 飾り金物
 建具工事
 畳工事
 設備工事
 門・塀工事
 造園工事

平成二十六年四月～平成二十七年七月
 平成二十六年七月～平成二十七年八月
 平成二十六年七月～平成二十七年九月
 平成二十七年四月～九月
 平成二十五年三月～平成二十七年九月
 平成二十六年九月～平成二十七年八月
 平成二十七年五月～九月

◆木工事の経緯(建て方・屋根仕舞)

本工事では伝統工法(石端建て足固め工法)を用いました。在来工法(基準法)が筋違で剛性を保っているのに対し、この工法は柱と横架材が精度の高い仕口しくちによって組まれ筋違なくして剛性が保てます。また、在来工法では土台を基礎に緊結きんけつするため、地震の影響を受けやすい。それに対し伝統工法は、礎石の上に載っているだけなので建物自体が地震による影響を受けにくいのです。寺院建築が数百年・数千年たっても残っているのはそういうことなのです。

ただ、建築基準法を全く無視するわけにはいかない為、とどこどこに在来工法を取り入れて法的基準をクリアーしています。

書院棟においては伝統工法+横架材の長尺材を使用することで、建物の剛性をより一層高めています。しかしながら長尺材を使用するには継手の仕事は減少しますが、その分仕口が複雑怪奇でパズルのようでした。順番を間違えると組み上げることができません。いつの日か、改修工事に入ることがあるとしたら仕事をする大工は驚くことだと思います。そして、平成の時代でもこのような仕事をしていただと脱帽してくれるのではないのでしょうか。ささやかな、未来へのメッセージです。



建て方 柱建込 平成25年8月



足固めの仕口



足固めの仕口



格子も建込



小屋丸太組



小屋丸太組



小屋組 小屋束取付



小屋組



化粧垂木取付



木小舞取付



桔木取付



野垂木取付



荒野地貼り



破風板取付



荒野地完成

造園工事の経緯

◆老木紅梅白梅の移植

旧原田邸より鎮座している紅梅白梅の老木。

本工事ではそこに参道が来るためこの老木を移動することとなりました。

この老木、樹齢約百年、幹には大きな洞があり、総重量(根巻き含む)八トンの大木。

持ち上げ方によっては幹からバツサリ折れてしまうか、紅梅、白梅が分裂してしまう。

細心の注意を払って移動しなければなりませんでした。まずは大きく穴の空いた幹に

カツブシ(丸太を半裂きにしたもの)を棕櫚縄(しゅうろなわ)で巻き付け養生し、枝が折れないように

添え木や頬杖で固定しました。あとは鉢が

壊れないように、吊りあげたら中継するこ

となく一回で移動。そのために60トンのラ

フターを使用しました。

根付くかどうか移動してからも心配でし

たが、無事新居に安座した老木は二年と半

年を過ぎた今でも元気に梅の花を咲かせて

います。





◆工事関係者

この度の工事では、大変多くの方々の協力を得ました。ここに主要な関係者の名前を期
します。

設計監理
一般財団法人 建築研究協会
施工請負
（株）水澤工務店
木工事
（株）水澤工務店
彫刻
（株）安田松慶堂
瓦工
（株）渡辺瓦店

柿葺き
（株）児島工務店
板金工
（株）小野工業所
左官
中島左官（株） 池本工業（株）
鳶
長島組 （株）星工務店 大三工業（株）
石工
（株）安藤大理石
木製建具
（株）昭栄技研 （株）山川工芸 渡辺建具店
経師
（株）東京表具
畳
（株）嵯峨藤本畳店
飾り金物
京都社寺飾漆（株）
漆
大河原漆工房
塗装
（株）彩晃社
木部洗い
（有）関東美装工業所
鋼製建具
一尾建創工業（有）
造園工事
（株）ふじい庭苑
木材
（株）金幸 （株）徳田銘木
舗装
前田道路（株）
電気設備
渡辺電工（株）
空調衛生設備
（株）ロイヤルエンジニアリング

◆おわりに

伝統工法にこだわった相国寺東京別院方丈客殿が完成したことにより技術の継承が出来るかと思っております。

めまぐるしく変わっていく東京青山に、新たに長い歴史を刻んでいくことでしょうか。

このような伝統建築の施工をまかせてくださった相国寺様には深く感謝いたします。

また、本工事に携わり協力くださった皆様、そして、最後まで御指導いただいた建築研究協会 藤本様、この場を借りて御礼申し上げます。



第三条 源四苦 I

生は苦である。

愛する人と別れ、離れることは苦である。

憎む人とも顔を合わせねばならないことは苦である。

求める物が自らの所有とならないことは苦である。

見る物・聞くもの、妄想のまま行動する結果は苦である。

財に心を奪われ、名誉を誇りたいが為に敵を作り、敵を蹴り倒し、一生涯心の

佛道定款

— YOUR GUIDE FOR
DEATH EDUCATION —

平静を得ることなし。

老いは苦である。

薄くなった髪の毛、露骨に姿を現す白毛。

皺しわくちやな顔、ぼやけた視力、遠くなった耳、曲った腰。

全身老いゆく吾が身の姿を見続けることは苦である。

病は苦である。

突然の脳卒中で半身不随となり、家族に迷惑を掛け続けていかねばならないことは苦である。

乳癌で乳房切除術を受けた心の傷は苦である。

死は苦である。

一度も経験したことのない死^⑥に、たった一人で向って行かねばならないことは、恐ろしいことである。

愛しい家族と永久の別れをして去らねばならない悲しみの深さは無限の苦である。

第三条 源四苦Ⅱ

〔生苦〕 健康に日常生活を営んでいる者でも、頭に浮かぶ煩惱妄想に従っていれば苦に到る。

物足りない。気に入らない。頭に来る。腹が立つ。

奴やぶの口のききかたがむかつく。奴の態度が悪い。

生意気な奴だ。明ても暮れても心は周囲の人間への悪意あくい・悪念あくねん・悪口わるぐちで一杯。一日たりとも心の平安を得ることなし。

〔老苦〕 鏡に映る自分の顔、年々衰弱していく姿を眺め続けなければならぬのは大きな苦悩である。

物忘れの多さ、記憶力の低下、若い者から非難ひなん・侮蔑ちやうしやう・嘲笑ちやうしやうに耐えていくことは苦痛である。

吾が身の歯痒がゆさ、遣やる瀬せなさ、情せなさ甘んじて老いた不様ふざうを晒ひけ出すことは苦である。

「病苦」健康な体に戻りたいと願っても、二度と普通の健康体に戻ることがない、不治の慢性病・難病に罹ることは苦悩である。

不慮の事故で手・足が切断され、下半身が不随となり、一生、他人の世話を受け続けることは苦である。

「死苦」団欒の家族、親友との別れ。

住み慣れた吾が家からの旅立ち。

無情迅速のその日その時が刻一刻と忍び寄る。

何としてでも死別のその日その時を避けて通りたい願望。

全を捨てさせ、自分を諦めさせて、去らねばならないことは最大の苦である。

「仏法四苦」

仏教の入門の原点は生老病死、四苦の苦悩。この苦痛から解放されることはできないのか、という疑問から始まるのである。

お釈迦様の「四門出遊」

東門を出ると、老人。

南門を出ると、病人。

西門を出ると、死人。

北門を出ると、沙門。

この老・病・死の三相を観じて、お釈迦様ご自身が眼前の不平等に心を悩まされて、生苦を受けられ、北門から姿を現された梵天の化身である出家沙門に誘はれて、お釈迦様自らが出家されて不平等三相を平等一相になる悟りの道への修行を始められた訳である。

ここで大事なことは、「四門出遊」は決してお釈迦様だけが誘はれていたわけではなく、何人も日々誘はれていることに気付いてもらいたい点である。この仏道定款の本懐は読者への「四門出遊」への誘いにある。

たった一度の短い短い人の一生涯を、短いと気付かずして過ごしてしまう。無明が四苦の源である。

この四苦から解放される為に仏法があり、持戒があり悟りがある。生命を授けた全ての人間が一日も早く仏縁に触れて、熱心に仏教を学び、真剣に仏道修行を実践して頂き、大自在の境地を自らのものにしてもらいたいと願うものである。

短い一生、はかないかな人間の存在。人間が仏法に依って楽しく有意義に生涯を充実して締めくくってもらいたいのである。

さあ皆さんも、居心地のよいカピラ城から外の世界へ「四門出遊」する時節因縁の到来です。

観音懺法会を彩るもの ——三十三観音図と動植綵絵——

最終回

立畠敦子

これまで三回に渡り、観音懺法会をめぐる歴史や背景、法会の流れや経文について述べてまいりました。最後になります今回は、相国寺観音懺法会に新たな風を吹き込んだ伊藤若冲の「動植綵絵」について見ていきます。

観音懺法会の本尊

平成二十六年六月十七日の観音懺法会では、方丈内に孔雀、鳳凰、鶏、梅や向日葵、紫陽花や芙蓉といった動植物を色鮮やかに躍動感に満ちた筆致で描いた「動植綵絵」(複製)が飾られ参列者の目を釘付けにしておりました。(写真1) これら動



(写真1) 2014年6月17日 動植綵絵三十幅を掛けた観音懺法会荘厳のようす

植物と、正面に掛けられた文殊菩薩・普賢菩薩は、江戸時代、京都錦市場の青物問屋の主人で絵を良くした伊藤若冲(正徳六年(一七一六)二月八日〜寛政十二年(一八〇〇)九月十日 享年八十四才)によって描かれ相国寺に寄進されたものです。観音懺法会は、観音菩薩を堂内に勧請(招き)し、おのれの罪を詫び、亡き人の追弔をするため「観音懺法」の経文を唱え、途中で香や浄水を供え堂内をめぐるります。そのはじめりは鎌倉時代末にみられ、現在の形に整ったのは応永二十年頃と考えられます。

そしてこの観音懺法の本尊として新たに作られたのが、観音菩薩の救済の姿である「三十三の応現身」をあらわした現在東福寺にある三十三観音図です。これは東福寺画僧明兆によって描かれ、一幅に一体の観音と観音経の場面を描き、三十三幅で一具となっています。



(写真2) 2010年6月17日 文室宗言筆三十三観音図を掛けた観音懺法会荘厳のようす

この明兆の三十三観音図をそのまま写したものが、相国寺に所蔵されています。相国寺僧文室宗言によってうつされたそれは、一昨年まで観音懺法会で掛けられておりました。(写真2)

相国寺において江戸時代初期に文室宗言ぶんしつそうげんによって写されたこの三十三幅の観音図は、以降観音懺法会の本尊として掛けられていたと考えられます。

明和二年（一七六五）、相国寺に「釈迦三尊図」三幅と「動植綵絵」二十四幅が伊藤若冲より寄進されました。その寄進状から、絵は動植綵絵と呼ぶこと、若冲が自ら思い立って描き相国寺に寄進したことがわかります。若冲は宝暦七年（一七五七）四十二歳ごろから動植綵絵を描き始め、明和六年（一七六九）頃まで約十年をかけて、「釈迦三尊」三幅と「動植綵絵」三十幅を仕上げたのです。

明和六年（一七六九）六月一七日の相国寺閣懺法に際し、「釈迦三尊」と「動植綵絵」三十三幅を方丈に掛けており、以後毎年一般参詣者にも公開されました。

釈迦三尊図の元絵と「三十三幅」の絵

伊藤若冲は、三十代のころから相国寺一―三代となる梅莊顯常ばいそうけんじょう（大典禪師）と大変懇意にしておりました。もともと伊藤家の菩提寺は浄土宗の寺でしたが、大典禪師との関係から禅宗に傾倒し、また若冲の画力を養った中国絵画の模写には、その多くを所有していた京都の禅宗寺院へ大典禪師の働きかけが影響しているといわれています。

「動植綵絵」三十幅とセットとなる釈迦如来、文殊菩薩、普賢菩薩三幅は、同様に東福寺にあった中国絵画を若冲がうつしたものです。（現在は東福寺ではなく釈迦はクリーブランド美術館、文殊・普賢二幅は静嘉堂文庫美術館に所蔵されています。）

そもそも釈迦とその脇侍である文殊普賢、そして釈迦を取り巻く生きとし生けるものとして、描かれたものである若冲の三十三幅には、あらゆるものに仏性をみる「山川草木悉皆成仏」の思想がこめられているともいわれます。そしてこれは観音の慈悲が遍くすべてのものに行きわたるといふ観音懺法の考えと重なるともいえます。つまり、若冲の三十三幅は観音懺法を念頭に、制作されたということになり、「三十三」という数がそれを明示しているといえるでしょう。

残念ながら本人の言葉は残っていませんが、明和二年九月十九日に弟が亡くなり、その十日後に、「釈迦三尊図」と「動植綵絵」二十四幅を寄進していること、四年後の明和六年には、閣懺法の際若冲の三十三幅がすべて掛けられていること、明和七年には若冲とその父母の戒名を記した位牌（写真3）が相国寺に納められていることから、若冲が足繁く相国寺に通い目にした観音懺法会に、自身と父母兄弟の弔いの縁となる絵として、観音懺法の本尊三十三観音になぞらえたこの「釈迦三尊」と「動植綵絵」の三十三幅の絵を納めたと考えられるでしょう。

加えて、相国寺の観音懺法は閣懺法と呼ばれ、山門上の円通閣で行われるものでした。



（写真3） 明和7年10月 伊藤若冲が納めた位牌
（現在開山塔に祀られ観音懺法会の際須弥壇に祀られている）

円通閣の円通は円通大士＝観音菩薩のことで、本尊として観音が安置されていました。つまり相国寺で一番大事なものとされる法会である観音懺法会で、本尊観音に加えて若冲独自の解釈で描かれた「釈迦三尊」「動植綵絵」三十三幅を用いて法会を荘厳することができる。若冲は考えたのではないのでしょうか。

相国寺と動植綵絵

こうして若冲の思いが込められた「動植綵絵」は、毎年の懺法の際に方丈で掛けられ、多くの参詣者の目を楽しませ、また若冲縁の人々の回想などで使用されてきました。「動植綵絵」は若冲が希望したとおり若冲の縁の人々の菩提を弔い、さらに相国寺の窮地を救うこととなります。

幕末から明治にかけて廃仏毀釈の動きの中で相国寺も困窮を極めます。

明治二十二年三月に「動植綵絵」三十幅が宮内庁に献上(現在は宮内庁三の丸尚蔵館)、下賜金として一万円が相国寺に支払われます。これにより今日まで堂宇を維持し、途切れること無く観音懺法会の修懺が続いているといえるのです。

観音懺法会で一番最後に読まれる小諷経。これには相国寺を支えた多くの人々の名前が記されますが、この中でまず最初に読まれるのが若冲の父母そして若冲となっていることから、相国寺の若冲への感謝の気持ちが読み取れます。

「動植綵絵」はその後、相国寺に残された釈迦三尊を加えた三十三幅を並べるため、コピー印刷による複製が制作されました。

そして平成二十六年の観音懺法会。それは百二十六年ぶりに「釈迦三尊」と「動植綵絵」が一具として堂内を飾ることとなったのです。

観音懺法会という法会を伝えてきた相国寺。その数々の思いや歴史に少しでも感じているだけでも幸いです。

(写真はすべて筆者撮影によるものです)

立畠敦子

日本中世絵画史

一九九九年 九州大学大学院文学研究科(美学・美術史)修了

現 在 北九州市立小倉庭園 主任学芸員

●研究業績

「東福寺蔵明兆筆三十三観音図に関する一考察」

(九州藝術学会誌『デアルテ』26号所載 2010年3月)

「『観音懺法』その成立と発展に関する一考察」

(『花園大学国際禅学研究所紀要』7号 2012年3月)

「祖師図の研究・東福寺画僧明兆の作例を中心に」

(『高梨学術奨励基金年報』2014年11月)

など、禅林内における画僧・仏画について考察を続ける。



「いただきます」

演劇塾 長田学舎 河田洋志



新米をいただいたー

まずは、両親に供えて、その後、つやつやと光る御飯をお茶碗に装ってー

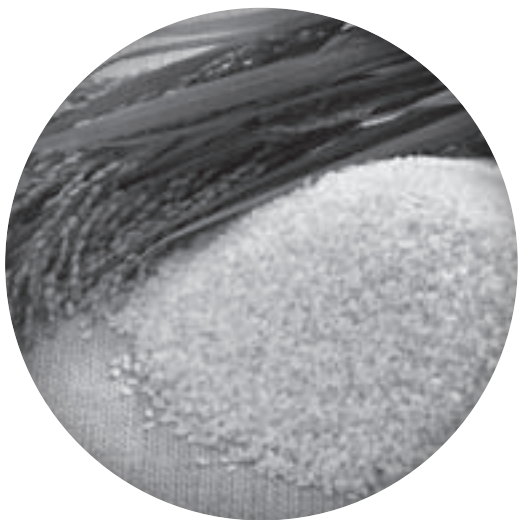
「いただきます」 掌を合わせていただいた。ー 美味しいー 御飯好きの私にとって至福の時である。

ところで、「いただきます」と掌をあわせたのは、新米をいただくから特別にそうしたわけではない。小さい頃から食事の時には当り前に掌を合わせて来た。それは、私だけでなく日本人の日常生活では当り前の事である。

私達は、仏前で掌を合わす。如来様、菩薩様、そして先祖に。祈りや、願ひ、感謝の心をもつて。それは、神前でも然りである。

食事の時は、祈りや願ひではなく、感謝の心で掌を合わす。仏前や神前の時は、心のなかでしゃべってはいるが、声には出さない。しかし、食事の時は「いただきます」とはつきり言葉にする。「いただくよ」「たべよ」「さきに食べていい」等とまわりの人にしゃべるのではない。日頃意

識はしていないが、なにかに向かって「いただきます」と云っている。それは、無意識でいってはいるが、お米を作った人から目の前の御飯迄の何人もの作り手に、そして強い生命をくれているお米にいつているのである。



お米の起源は、約一万年前の中国長江流域の湖南省あたりだと云われている。そして、日本に伝わって水稲農業が始まったのが三千年前との事。それが今日まで続いている。驚くべきは、稲作の基本は三千年前も現在も同じだという事だ。

水稲農業の伝来は、日本に大きな変化をもたらした。狩猟、漁労、山野の植物採集に頼っていた生活が、米を生産しそれを蓄える事が出来るようになったのである。それによって人々は、一か所に定住する事が可能になった。そして集落が拡大していった。その過程で貧富の差が生まれ、階級が生まれ、争いがおこっていった。そして、いくつもの小国が誕生し、それがやがて、邪馬台国、大和朝廷誕生へとつながっていく。歴史のまじめのような話になってしまったが、このようにみると、現在の日本の色々な生活の基盤を生み出すきっかけとなったのは、稲作が日本に伝来し、広まった事だといえる。

稲作の伝来以来、三千年の米作りの歴史を見ると、ついこの間まで、日本の営みの中心は米作りだったと云える。米の出来不出来が人々にとって一番の大切な事だったのである。

それを教えてくれるものがいくつもある。

「こめ」の語源の説の一つは、「込める、籠める」という意味から来たといわれる。古来お米は、非常に大切な穀物だった。様々な儀式や祭礼に使われて来た。つまり、「お米」は何か神聖で、神秘的力が「込められた」存在なのである。そこから転じて「こめ」と呼ばれるようになったといわれている。

毎年十一月二十三日に行われる新嘗式は、その年の収穫に感謝し、新穀を供えて神を祭る稲作儀礼である。全国の神社で行われるが、宮中では、天皇が感謝を込めて新穀を神々に奉るとともに、御自らも召し上がる。この日は「勤労感謝の日」として国民の祝日となっているが、祝日名の由来は、生命の糧を神様からいただくための勤労を尊び感謝をしあう事だという。

他にも、伝統芸能の田楽・御田植・花田植等も、稲の豊作祈願、収穫祈願の行事である。又、全国で行われる祭りの多くは、田の神に向けての

祈願の為に行われて来たと言われる。

日本の国技である相撲の所作の四股は、元々、大地を踏みしめる事で土地から災いを払い、豊作を祈願する意味があるという。



このような事を踏まえて、稲作を中心に日本の歴史をみると色々な発見がある。その話は又の機会にとして、現代に近い昭和の米作りを見てみると―昭和でも、戦後の混乱がおちついた以降―農業は大変な変化をしている。時代時代で、様々な工夫をしてきているのだが、どの時代も昭和には及ばない。農家の何百年もの悲願であった田植機の登場、カントリーエレベーターの登場等により、農作業の簡素化が進み、生産量が飛躍的に伸びた。(ある統計によると、田圃10aあたりの労働時間が、昭和二十五年で207時間だったのが、平成十四年では、32時間になっている)ところで、稲作の伝来以降、お米を主食としてきた日本人だが、本当の意味でお米をいつでも食べられるようになったのは、飛躍的な進歩を遂げたと話した昭和時代、それも昭和四十年前後なのだといわれている。つまり、それまでの日本人は、当り前に白米を食べられなかったと云う事なのである。

半世紀前迄、当り前にお米を食べられなかったと云っても現代の人はピンとこないだろう。私自身もそうである。しかし、記憶の中の祖母や母は、一粒のお米も無駄にしていなかった。固くなったお米は水につけて糊として使っていた。お釜やおひつに残ったお米も洗い流すのではなく、掬ってお腹に入れていた。

私は、農家の生まれで、父は会社員で、母が主に農作業に従事していた。私の幼い頃―農業が飛躍的な進化を始める直前の昭和三十年代―。母は、昼夜を問わず働いていたように思う。月明かりの中で稲刈りをする母の傍にいた記憶がある。この頃は、未だ人の力で米作りをしていたのである。

晩年の母が、よく自慢げに私に云っていた。『母ちゃんは、よう働いたんやで。誰にも負けへん程働いたんや』―その時は、わかったわかったと、いい加減に聞いていたが・・・今思うと何とも重い言葉である・・・

三千年の稲作の歴史の中のたった五十年で、農業は凄まじい進歩を遂げた。しかしその反面、三千年もの間、日本人が意識せずとも当り前に持っていた大切なものを、だんだんと忘れつつあるのではないだろうか。

稲作の基本が、三千年前も今も変わらないのと同じで、人が、お米に代表される食物の生命をお腹に入れて初めて生命を繋ぐ事が出来ること

いう事は、それこそ人類誕生から現在まで変わる事が無い—先人は、その自然の恵みである「生命」に自分たちが生かされているのだと云う事を理屈でなく知っていたのだ。

日本人は、日常生活で当り前に「いただきます」と掌を合わす。これは絶対になくしてはならないものである。だからこそ、その中から私達は学ばなくてはならない。先人が当り前に持ち続けてきた、心からの感謝を—

おさだ塾自主公演のお知らせ

『春の小さな劇場』

公演日／平成二十八年三月二十五日(金)・二十六日(土)・二十七日(日)

問い合わせ先／おさだ塾 電話・FAX(〇七五)二一一〇一三八

於・般若林(相国寺北門前町)

※「春の小さな劇場」は、誰もが無条件で楽しめ、そして清潔な感動を通して、その余韻の中から何かを考えさせられる演劇を理想とするおさだ塾のオリジナルの現代劇でございます。

本山だより (平成二十七年七月～十一月)

○第六十二回 暁天講座

八月二日、三日の二日間、大方丈ならびに大書院において、第六十二回暁天講座を開催した。午前五時半より受付を開始、初日は、八月の第一日曜日で講座後に本山墓地施餓鬼が

あったため、五時四十五分より坐禅、その後三十分の法話、二日目は六時より坐禅、その後約一時間の講演という時間割であった。両日も大書院にてお粥が振る舞われ終了した。本年の講師は、初日は有馬管長が「白隠禅師」、二日目は女優の真野響子氏をお迎えし「モーニング・グローリー」という演題でそれぞれお話いただいた。両日とも二二〇人を超える参加者があり、大変盛況であった。



有馬管長法話



真野響子氏講演



坐禅をする室町小学校の児童たち



「暁天講座」大方丈での坐禅

○全文連文化財保護研修会
九月三十日、滋賀県大津市の石山寺(東寺真言宗)で、全国国宝重要文化財所有者連盟の文化財保護研修会が開催され、山木財務部長、佐分財務部長が出席した。

十五日まで一般に公開された。
二十八年度の特別拝観は、京都市観光協会主催の第五十回「京の冬の旅」非公開文化財特別公開事業に協賛し、一月九日から三月十八日まで法堂・方丈を公開する。続く春期の特別拝観は変則的になり、三月二十四日から四月十一日までの前期と五月二十三日から六月四日までの後期の二期となり、公開場所は法堂、方丈、宣明(浴室)の予定である。この前期と後期の間の四月十二日から五月二十二日までは、臨黄合議所・禅文化研究所・京都市観光協会主催「臨濟禅師一一五〇年・白隠禅師二五〇年遠諱記念特別拝観」に協賛し、法堂と方丈を公開する。(詳細は92・94ページ参照)

○臨黄合議所理事会
九月四日、臨黄合議所理事会が相国寺二階会議室において開催され、理事長を務める佐分宗務総長をはじめ臨濟宗黄檗宗各山から宗務総長十四名と事務局員が出席した。

○室町小学校六年生坐禅会
九月十五日、室町小学校(相国寺が属する小学校区)の六年生児童四十六名と校長先生、担任教諭が訪れ、地元の歴史学習と坐禅を体験した。はじめに承天閣美術館二階講堂で矢野教学部長より相国寺の歴史解説を聞き、続いて江上教学部員指導のもと書院で坐禅をした。初体験の児童が足の痛みをこらえる場面も見られたが、多くの児童が警策を受けた。坐禅後は、法堂と方丈を順に拝観した。
○二十七年度秋期特別拝観
九月二十五日より平成二十七年度の秋期特別拝観を行い、法堂、方丈、開山堂が十二月

○同宗連第一連絡会

九月三十日、京都市山科区の醍醐寺(真言宗醍醐派)で、二十七年第二回『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議の第一連絡会が開催され、矢野教学部長、江上教学部員が出席した。

○臨黄合議所移動理事会

十月六日、臨黄合議所の移動理事会が大本山方広寺(静岡県浜松市北区引佐町)において開催され、本部を預かる相国寺派からは総会と総長会に佐分宗務総長、教学部長会に矢野教学部長、江上教学部員、法務・総務・庶務・財務部長会には山木財務部長と佐分財務部員が出席した。主な議題は、来年の「臨濟禪師・白隠禪師遠諱事業について」であった。この移動理事会は、京都以外の臨濟宗各派本山において、隔年で行われるものである。

○東京別院方丈・客殿・書院の引き渡しと

仏像搬入開眼法要

十月十日、相国寺東京別院(東京都港区南青山)において、施工業者の水澤工務店より相国寺への引き渡しと仏像の搬入ならびに開眼法要が行われた。有馬管長が導師のもと開眼の諷経が行われた後、佐分宗務総長、山木財務部長、佐分財務部員らが立ち会いのもと、各所説明などを受けた。今回搬入された別院のご本尊は釈迦如来坐像で、京仏師の江里康慧氏の作。木曾ヒノキの寄せ木造り、像高は五十七センチ、光背・台座を含めると一三六センチである。

○開山忌

開山夢窓国師の毎歳忌法要が、十月二十日(宿忌)、二十一日(半斎)の両日にわたり厳修され、第四教区若狭より八十七名(寺院九名を含む)、第五教区出雲より四十三名(同寺院一名)、第六教区鹿兒島より十四名(同寺院一名)の相国会会員の団体参拝があった。

二十一日は、九時より法堂において小林老

大師導師のもと猷粥諷経にはじまり、諸堂焼香、奠供十八拜が行われ、引き続き檀信徒、総代、本派寺院、天龍寺一山、臨濟宗黄檗宗各本山、他宗派寺院の順に入堂し、有馬管長導師のもと出班焼香に引き続き楞嚴呪行導が、続いて開山塔(開山堂開山像真前)にて諷経が厳修された。

また法堂では、相国会会員他列席者による「般若心経」諷誦を法要後に教学部で行い、相国寺総代、各相国会会長、総代各氏にご焼香を

していた。参列者には大・小書院、方丈などに斎席が用意された。

管長香語は左の如し。

開山忌毎歳忌香語

這老普濟太郎當 這の老、普濟、太た郎當
幾多住山傳此香 幾多の住山、此の香を傳う
野衲無端焚一片 野衲、端無く、一片を焚く

穿佗鼻孔千古芳 佗の鼻孔を穿つて、千古芳し
大龍叟九拜 定中昭鑑

○第三十五回寺院婦人研修会

十月二十八、二十九日の両日、第三十五回相国寺派寺院婦人研修会が行われた。初日は午後十二時半参集、一時より方丈で本尊・開山各諷経後、佐分宗務総長より開会挨拶、有馬管長より訓示をたまわった。記念撮影後、大書院にて教学部員指導のもと坐禅を行った。

本年の講義は、浄土真宗本願寺派の岩本孝樹氏をお招きし、「過去帳」等と身元調査―過去帳又はこれに類する帳簿の取扱について―という演題で講演をたまわった。住職不在時には、寺院婦人や寺族が訪問者の対応にあたる場合も多いが、今回の講義では個人情報となる檀信徒の過去帳開示や本堂での年忌法要の掲示、墓地の情報取扱いについて、取扱い責任者として慎重に対応すべきであり、他派で

はその取扱い基準が策定されつつある事などを学び、研修生も真剣な表情で拝聴した。
翌日は朝の修了式後、奈良市の法相宗大本山の興福寺を訪ね、国宝館と北円堂などの境内を特別拝観、午後からは真言律宗総本山の西大寺において特別拝観と大茶盛を体験した。
今回は以下の教区より次の十九名が参加した。

◇参加者名簿(教区・台番順)

第一教区 澤 万里子・澤 洋子(林光院)

山木佐恵子・山木喜要子(普廣院)

久山順子(慈照院)

荒木寛子(光源院)

草場容子(慈雲院)

佐分厚子・佐分真希(豊光寺)

第二教区 和田真弓(是心寺)

鈴木典子(長栄寺)

第四教区 田中智津子(円福寺)

石崎典子(海岸寺)

第六教区 五十嵐多賀子(善應寺)

矢野志保(南洲寺)

芝原由紀子(感應寺)

近藤洋子(良福寺)

松本三津子(光明寺)

松下知子(永徳寺)



興福寺特別拝観



西大寺名物の
大茶盛りを体験



大茶盛りのお道具と一同

○天龍寺開山忌

十月三十日、京都市右京区の本本山天龍寺において開山夢窓国師毎歳忌半斎法要が厳修され、相国寺より佐分宗務総長以下計十名が出頭した。

○相国寺東京別院方丈・客殿落慶

十一月十六日、相国寺東京別院(東京都港区南青山)において方丈・客殿が完成し落慶法要が厳修された。当日は十一時より江戸消防記念会有志一同による木遣り披露に引き続き、有馬管長祝語、本尊釈迦如来像開眼諷経、方丈・客殿落慶諷経が行われ、小林老大師、佐分宗務総長をはじめ本山一山和尚、本派全教区宗議会議員・宗務支所長、片岡匡三相国会会長、相国寺総代各氏、建物の設計を担当した建築研究協会、工事を担当した水澤工務店関係者、仏師ほか来賓約一二〇名が列席した。

記念撮影が行われた後、会場をグランドプリンスホテル新高輪に移し、祝宴が催された。祝宴は二十六世観世宗家観世清和氏による舞囃子「高砂」に続き、有馬管長の挨拶、工事関係者への感謝状や記念品の授与、建築研究協会による工事報告、水澤工務店社長からの御祝辞があり、開宴となった。

管長祝語は左の如し。

金刹毫端忽円成
居然碧瓦放光清
奉安釋迦如来佛
聲色堆中鎮度生

大龍叟

金刹毫端、忽ち円成
居然として碧瓦、光清を放つ
奉安す、釋迦如来佛
聲色堆中、度生を鎮む

(巻頭カラー2ページ・22ページなどを参照)

○北朝鮮訪問

十一月二十三日より二十七日まで、北朝鮮開城で「第一回開城靈通寺巡拝日本代表団平和の祈り」が開催され、僧俗五十五名が参加し、本派からは有馬管長、小出量堂慈照寺執事長(桂徳院住職)、佐々木柴堂師(第三教区天正寺住職)と相国寺顧問弁護士橋口玲氏が同行した。有馬管長は、二十五日に靈通寺で厳修された「平和の祈り式典法要」の導師を務められた。また管長にとっては、平成十八年以来二回目の北朝鮮渡行となった。

坐禅会のご案内

本山維摩会

毎月第二・第四日曜日開催
(※一月第二、八月第二・第四、十二月第四日曜日は休会です)

相国寺の維摩会は、明治時代に当時の第一二六世荻野独園住職が、主に在家を対象として始めた坐禅会であり、以来歴代の相国寺住職が指導にあたってきました。第二次大戦中より戦後昭和三十八年頃までは、相国寺塔頭大光明寺で開催され、それ以降は再び本山での開催となり、現在に至っています。維摩会の名称の由来は、經典『維摩経』の主人公で、在家でありながら釈迦の弟子となった古代インドの維摩居士からつけられたものです。

会場：相国寺 本山大書院

時間：午前九時より十一時迄

内容：坐禅(九時～十時半)

法話(十時半～十一時)

注意点：当日は八時五十分までに必ずお集まり下さい。十人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願いします。(電話〇七五―二三一―〇三〇―一)

第一教区

○相国寺塔頭光源院行者講大峰山入峰、
談山神社 安倍文殊院参拝

毎年六月に大峰山に入峰修行する相国寺信心教社第一号連山組にて、光源院住職荒木元悦和尚は、住職就任以来昨年六月入峰で四十八回の入峰修行を無事終えられた。

平成二十七年六月十二日午前九時より、光源院行者堂において前行、道中安全、家内安全の祈願を役員及び今回で七回目入峰による、院号授与者の他多数の参拝者で行う。翌日十三日早朝午前六時、毎年の通り堀川今出川を貸切バス二台で新緑の大和路を一路奈良県吉野郡天川村の洞川とうがわに向かう。十時宿泊所になる洞川西村清五郎旅館に到着、早めの昼食手弁当を取り、直ちに入峰に向かう。今年はずわやかな晴天にめ

ぐまれ、気温もやや低く入峰日和で、新客六名を先頭に山上に向かう最初の大事は行場である「西の覗」も無事に終えた。新客は裏行場に向かい、その他の者は本堂に向かう。新客の行を終えて帰って来るまでの約一時間ほど本堂にて待ち、無事全員そろったところで勤行する。参詣後各自全員下山し、夕食後旅館にて宿泊する。翌十四日は午前五時半起床、六時に龍泉寺において新客と共に般若心経を唱えながら水行を行う。終って西村旅館にて朝食を取り、全員龍泉寺へ参拝後洞川を出発する。田園の広がる大和路で途中、多武峰談山神社にお詣りし、さらに安倍文殊院を参詣する。昼食をホテルウエルネス大和路でとり、休憩後奈良パークホテルに向かい、小宴、午後六時半同ホテル出発、午後八時堀川今出川に無事全員帰着、万歳三唱して目度度く解散する。

●談山神社たんざん（奈良県桜井市多武峰とうのみね）

「多武峰縁起」によれば、「中大兄皇子、中臣鎌足蓮に言うて曰く、鞍作（蘇我入鹿）の暴虐をいかにせん。願わくは奇策を陳べよと。中臣連、王子を將いて城東の倉橋山の峰に登り、藤花の下に撥乱反正の謀を談ず。」と記されています。この談合により皇極天皇四年（六四五）飛鳥板蓋宮いたぶきのみやで蘇我入鹿を討ち、中央統一国家及び文治政治の完成という歴史的偉業を成し遂げられました。多武峰はこの後、談山峯、談い山、談所が森となり「大化改新談合の地」の伝承が残りました。現在の社号の「談山神社」もここからきています。

●日本三文殊第一霊場

安倍文殊院あべぶんじうゐん（奈良県桜井市安倍山）

当山は今から一三六〇余年前の大化元年（西暦六四五）安倍一族発祥の地である当地に、大化の改新時に左大臣となった安倍倉梯麻呂公が創建され、我が国では最古に属する寺院



大峰山 談山神社 安倍文殊院 檀原神宮 平成27年6月13日入峰 連山組 53名

です。奈良時代の遣唐留学生、阿倍仲麻呂公や平安時代の大陰陽師、安倍晴明公が出生された寺院でもあり、我が国陰陽道の源流の寺院でもあります。

当山は創建以来、一貫して御祈祷の寺としてその法灯が守られてきております。特にご本尊の文殊様が鎌倉時代に造立されてからは、当山出生である平安時代の大陰陽師・安倍晴明公に関わる陰陽道総本家に加え、古文書の記録によれば当山は日本三文殊霊場とあり、文殊様の知恵授与と魔除け・災難除け御祈祷の寺として全国に知られるようになりました。ご本尊の文殊様は鎌倉時代(建仁三年・一二〇三年)大仏師・快慶によって造立されました。当山の文殊様は四人の脇士を伴う「渡海文殊郡像」(全て国宝)のお姿で、私達衆生が魔を払い、知恵を授ける為の説法の旅に出かけておられるお姿です。文殊様は獅子に乘られ、左の手には慈悲・慈愛を象徴する蓮華(ハスの花)を持たれ、右の手には「降魔の利剣」と言う

大般若祈祷が行われ、有馬管長を導師に法類寺院が出頭した。不動堂石室内の弘法大師作とされる本尊不動明王は、首から上の病、特に眼病に利益がある。二月三日の「節分会」にも開扉法要がなされる。

○塔頭も第五十回「京の冬の旅」

非公開文化財特別公開事業に協賛

本山だよりの頁でもふれたように、平成二十八年一月九日から三月十八日まで、京都市観光協会主催の第五十回「京の冬の旅」非公開文化財特別公開事業が行われ、塔頭三カ寺も特別公開をすることになった。

公開寺院と場所は、山内塔頭が長得院(緒方香州住職)本堂、養源院(平塚景堂住職)本堂と書院、山外塔頭が眞如寺(江上正道住職)法堂ほつどうと客殿でいずれも初公開となる。

(巻末カラー90ページ参照)

剣を持たれています。(当寺略記より)

○鹿苑寺不動堂「不動尊開扉法要」

八月十六日、鹿苑寺(澤宗泰執事長)の不動堂において、恒例の「石不動明王」御開扉法要、



不動講社中による大うちわに仰がれての法要

第二教区

○第二教区 相国会総会

六月二十七日午前十一時より、桂徳院(京都市左京区大原)にて相国会支部総会が開催され、三十名が出席した。本堂にて全員で諷経したあと、総会に入った。はじめに平成二十六年年度の事業報告と会計報告がなされた。特記すべきことはないが、四月に行った第五回子供研修会の参加者が少なかったため、次回は多くの参加者を募っていたべくようをお願いした。総会後は、寺庭婦人方とお手伝いの皆様の協力のもと、懇親会を開催した。

第四教区

○若狭相国会 役員会

六月二十五日、若狭相国会役員会を正善寺に於いて開催した。岡山の曹源寺研修収支報



第二教区相国会総会(桂徳院本堂にて)

告並びに本山開山忌団参等について協議した。

○宗務支所 支所会

七月十四日、宗務支所支所会を正善寺に於いて開催した。お盆行事調整及び本山開山忌団参について協議した。

○宗務支所 支所会

九月二十八日、宗務支所支所会を正善寺に於いて開催した。本山開山忌団参の参加者集計等協議した。

○宗務支所 開山毎齋忌団参

十月二十一日、相国会会員七十八名住職九名、合計八十七名参拝。本山法要参拝後、昼食を済ませ東福寺参拝。

○寺院婦人会 第三十五回本派寺院婦人研修会
十月二十八日～二十九日、本教区より寺院婦人三名参加。

○長福寺晋山式

十一月八日、本山より有馬頼底管長猥下、佐分宗順宗務総長、矢野謙堂教学部長、天龍寺派より僧堂の先輩として薔薇軒安永祖堂老師の御臨席を賜り、慶雲山長福寺第二十二世武田典英和尚の晋山式が執り行われました。管長猥下の心温まる御垂訓を頂戴し、法縁深い尊宿方の祝福を受け、新命和尚、檀信徒ともども長福寺法燈の護持発展の思いを新たにしました。
(巻末カラー99ページ参照)

第五教区

○出雲相国会親子坐禅会

七月二十八日に「夏休み親子坐禅会」を東光寺で開催した。親子五十名、世話人十五名。総勢六十五名の参加があった。当日は雨の為、ラジオ体操は本堂で行った。富田寺和尚、西光院和尚の指導のもと坐禅。坐禅終了ののち、



親子坐禅会で「坐禅和讃」を読む

「坐禅和讃」を唱和し、参加賞が子供に渡された。のちお楽しみマジックショーがあり、ゲームに当たると商品を貰い、喜んでいた。

○東光寺住職 勝部大義師 在職年数五十年表彰
去る九月二十五日に東光寺の勝部大義師が
住職在職五十年となり、本山より賞状と記念品
が授与された。師は昭和四十年九月に東光寺
住職を拝命され、以後半世紀の長きにわたり同
寺の経営、護持発展に尽力されてきた。また大
正十五年のお生まれで、本年満九十歳となられ、
相国寺派では最長老の現役ご住職である。

○本山開山忌団体参拝

十月二十一日、例年通り本山開山忌に合わ
せ、団体参拝を行った。参加者は四十三名。前
日の二十日には、灘菊酒造で試飲と食事をと
り、綺麗になった姫路城を見学して、滋賀県の
雄琴温泉で宿泊。当日は法堂へ入堂し、開山忌
に出席し、方丈で精進料理を美味しく頂いて、
承天閣美術館を見学した。その後、鹿苑寺を特
別拝観した。境内では特別な場所を見せて頂
き、ご丁寧な案内に一同非常に感激されてい
た。お土産を買い求め、無事帰路に着いた。

第六教区

○良福寺本山開山忌団体参拝

十月二十一日、本山開山忌に合わせ、良福
寺(近藤永進住職)より一四名が団体参拝させ
て頂いた。前日の鹿苑寺特別拝観に続き、当
日は法堂へ入堂し、法要に列席、最後には他
教区の檀信徒の皆さんと般若心経を唱えた。
その後、方丈で精進料理を頂戴した。

○布教師特請

本派布教師の松本憲融師(第六教区光明寺
閑栖)が、特請により以下の日程、行事に合わ
せて出講し法話を行った。

九月二十一～二十三日

瑞光寺(佐賀県嬉野市・南禅寺派)秋季彼岸会
十一月八日

莊嚴寺(福岡市東区志賀島・東福寺派)開山忌



本山開山忌に参拝した出雲相国会参加者一同



出雲相国会親子坐禅会の参加児童たち

教化活動委員会活動報告

教化活動委員会委員長 佐分宗順

本年度の教化活動委員会研修会は、洗 建氏の座談会の出版と京都仏教会が企画した古都税問題の証言インタビューの協力に時間を取り独自の研修会は見合わせるようになりました。また相国寺研究の講座も相国寺資料集の出版が大詰めを迎えておりますので、今回は休ませていただきました。来年度は第一巻の出版を踏まえて研修会を行う予定です。

教化活動委員会が出版する洗 建氏の座談会は一昨年七月から昨年二月まで田中滋龍谷大学教授の司会、構成のもとに八回の座談会を行いました。同志社大学教授田中治氏（税法学）はじめ、中外日報社の津村恵史氏、京都仏教会事務局長長澤香静師、相国寺史編纂室の藤田和敏研究員にもお手伝いいただき、多くの方々のご協力を得て、本年度中には出版にこぎつけたと思います。

京都仏教会が出版する『古都税問題の証言(仮題)』は、藤田研究員がインタビューを行い、古都税問題の経過解説を担当いたしました。証言者には京都市元市長や助役、新聞記者、門前の業者、京都仏教会事務局、理事など約十二名のご協力を得ました。古都税問題はその後の仏教会の在り方、京都市と寺院とのあり方、社会問題や国家と宗教の問題に対する対応に大きな影響を与えました。何を学びどのように変化したのかを明らかにし、次世代に引き継ぐことがこの本のねらいとなっています。こちらも来年度前半には出版の予定です。



これまでに行った研修会の講義録をご希望の方は、手数料一千円を添え、下記の相国寺宗務本所内教化活動委員会宛にお申し込みください。

申込先 相国寺教化活動委員会

〒六〇二一〇八九八
京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一
電話〇七五一一三一一〇三〇一
FAX〇七五一一二二二三五九一
ホームページ(<http://www.shokoku-j.jp>)

平成二十七年(雪安居) 相国僧堂 在錫者名簿

| | | |
|---------------|--------------|------|
| 和歌山 (妙心) 観福寺徒 | 京都 (相国) 瑞春院徒 | 須賀集信 |
| 京都 (相国) 大通院徒 | 京都 (相国) 萬福寺徒 | 興山元卓 |
| 京都 (相国) 慈雲院徒 | 京都 (大徳) 大仙院徒 | 越中宗勇 |
| 島根 (妙心) 海禪寺徒 | 園山大穰 | |

| | |
|--|--|
| <p>大本山相国寺御用達</p> <p>社寺建築 (株)北村誠工務店</p> <p>〒603-8225 京都市北区紫野南船岡東町45 電話京都 (075) 441-0563 FAX京都 (075) 441-0571</p> | <p>〒604-8356 京都市中京区大宮通錦上ル 電話〇七五八二一三三七二</p>  |
| <p>大本山相国寺御用達</p> <p>庭園 設計・施工</p> <p>樋口造園 (株)</p> <p>〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル 電話 (075) 462-1385 FAX (075) 464-6120</p> | <p>大本山相国寺御用達</p> <p>御法衣・仏具</p> <p>(株)後藤利法衣店</p> <p>〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル 電話 (075) 221-4587 FAX (075) 223-0094 フリーダイヤル (0120) 014587</p> |
| <p>大本山相国寺御用達</p> <p>精進料理</p> <p>矢尾 治</p> <p>〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358 電話 (075) 841-2144 FAX (075) 841-2110 http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp</p> | <p>文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達</p> <p>社寺建築 設計・施工 数寄屋建築</p>  <p>澤甚株式会社 澤野工務店</p> <p>本社 〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入 TEL (075) 561-5394 (代) FAX (075) 533-3775</p> <p>山科事務所・工房 〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL (075) 541-1257 (F)</p> |
| <p>貴重な御法衣の御用は 大本山相国寺御用達</p> <p>後藤新助法衣仏具店</p> <p>〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地 電話(代表) (075)462-3915番 ファクシミリ (075)462-3616番 URL http://www.rinzai.jp E-mail : rinzai@rmail.plala.or.jp</p> | <p>大本山相国寺御用達</p> <p>藤安田念珠店</p> <p>〒604-8072 京都市中京区寺町六角角 TEL (075) 221-3735 FAX (075) 221-3730 http://www.yasuda-nenju.com/</p> |

相国寺史編纂室だより — 慈照院古文書調査 —

相国寺史編纂事業では、相国寺山内に所蔵されている古文書類の調査を進めております。『円明』一〇三号で相国寺・鹿苑寺・慈照寺の調査状況についてご紹介いたしました。今回は山内塔頭の慈照院に所蔵される古文書類についてご報告します。

慈照院所蔵の古文書は、現段階で二四五六点を確認しております。『円明』一〇四号において、ご住職の久山隆昭師より朝鮮通信使史料についてご紹介がございましたが、それ以外にも室町・戦国期のものを含め、注目すべき多数の古文書が発見されております。

古文書全体を見通すと、慈照院の法系に属する末寺の史料が多く含まれていることが特筆されます。代表的なものが第三教区の見性寺に関わる史料です。徳川歴代將軍から見性寺に与えられた領知朱印状の写しが一〇通残されています。それ以外にも、見性寺の住職交替に関連して慈照院に差し出された書状などが見られます。

慈照院の史料からは、法系を介して本山塔頭と末寺が強く結びついていたことがうかがえます。また、末寺の史料が散逸している場合は、本山塔頭に残されている史料が歴史を復元するうえで重要な意味を持つこととなります。寺史編纂事業の古文書調査は、相国寺派全体にとって有意義なものなのです。



創業明暦年間
七味家
 〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221
 TEL (075) 551-0738 / FAX (075) 531-9352
 ゴヨウハシチミヤ
0120-540738
 9:00~18:00(冬季は9:00~17:00)
<http://www.shichimiya.co.jp/>

大本山相国寺御用達
 社寺庭園・町屋庭園・露地庭
 作庭 管理
植昭 **長岡造園**
 〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3
 電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004

印刷を極め、印刷を超える



ヨシダ印刷株式会社 関西支店 京滋営業所

〒604-8277 京都市中京区西門院通り御池下A-3の西門院町572 [金沢本社] 〒921-8546 石川県金沢市御影町19-1 TEL 076-241-2141 (代)
 TEL 075-252-5421 (代) FAX 075-252-5423 [東京本社] 〒130-0014 東京都墨田区亀江3-20-14 TEL 03-3626-1301 (代)
 URL <http://www.yoshidap.jp/> E-mail info@yoshidap.co.jp [営業所・工場] 大阪・岡山・福井・江東製菓



創業明暦年間
七味家
 〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221
 TEL (075) 551-0738 / FAX (075) 531-9352
 ゴヨウハシチミヤ
0120-540738
 9:00~18:00(冬季は9:00~17:00)
<http://www.shichimiya.co.jp/>

税理士 奥谷 昌雄
 税理士 内藤 誠

〒602-8026
 京都市上京区新町通榎木町上る春帯町340番地
 TEL (075) 256-2551 FAX (075) 255-7461

TDS
 本寺の電気、空調、防犯、防災設備
有限会社 土橋電気設備

〒606-0953 京都市左京区松ヶ崎海尻町4番地4
 まちやまちや 105号
 TEL 075-703-6331 FAX 075-703-6332

OA機器・オフィス家具
 文具・事務用機器・印刷

株式会社 京都ベストビジネス

〒604-8431 京都市中京区西ノ京原町102番地1
 TEL (075) 812-7701 (代)
 FAX (075) 812-7707

夢のある空間づくりのパートナー

トータルディスプレイ 企画・設計・施工・管理
TOTAL DISPLAY
FUSHIMI KOHGEI
株式会社 伏見工藝

[本社] 〒612-8009 京都市伏見区桃山町見附町11番地
 TEL 075-621-2833 FAX 075-611-5465
 [宇治工場] 〒611-0041 京都府宇治市横島町吹前15番地
 TEL 0774-23-9255 FAX 0774-23-9254
 e-mail: fushimi@d1.dion.ne.jp

Future Active Alliance

office やまと

パソコンからネットワーク・サーバ構築まで
 IT環境のトータルアドバイザー

本 社 〒604-8842 京都市中京区壬生土屋ノ内町19-13
 TEL: 075-311-9000 FAX: 075-311-9494
 中央支社 〒615-0846 京都市右京区西京極大寺18丁目29-62
 TEL: 075-322-0110 FAX: 075-322-0770
 E-Mail: info@office-yamato.net

こころをつたえる
 和文具 和雑貨

株式会社 表現社

〒602-0861
 京都市上京区新烏丸通り荒神口南入る
 TEL: 075-222-1345 / FAX: 075-222-1354
<http://www.hyogensha.net/>

式典写真、風景写真など
 あらゆるニーズにおこたえます!

柴田明蘭
写真事務所

(公益社団法人) JPS 日本写真家協会 会員

☎ 090-8387-7735
 FAX 075-311-9369

〒615-0057
 京都市右京区嵯峨東山町24 シェルブリュー四番 603



(株)JTB西日本 団体旅行京都支店

〒600-8421 京都市下京区綾小路通烏丸西入童侍者町167 AYA 四条烏丸ビル2F

TEL.075(284)0173 FAX.075(284)0153

担当：酒井 健次（営業時間 9:30~17:30/土・日・祝日休業）

www.shoyeido.co.jp



香



大本山相国寺御用達

香老舗 松榮堂

京都本社 / 京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595

東京支店 / 東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969

札幌支店 / 札幌市中央区南 8 条西 12 丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店 産寧坂店 京都駅 薫々 嵐山香郷 大阪本町店 銀座店 人形町店 青山香房 札幌店



ANA
CROWNE PLAZA
KYOTO

世界の歴史都市、
京都の中央に位置し、
世界文化遺産「二条城」の前に佇む
ANA クラウンプラザホテル京都。

ANAクラウンプラザホテル京都

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前

Tel 075-231-1155

www.anacpkyoto.com

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為努力しています

電気設備工事・消防設備工事

A DACHI 足立電気工業株式会社

〒601-8045

京都市南区東九条西明田町34-21

TEL 075-681-4461 FAX 075-681-9767

E-mail: adachi-d@guitar.ocn.ne.jp

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷
華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

各大本山御用達

橘兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側
電話 (075) 221-0934 番 振替京都 01090-4-3476

大本山相国寺御用達

京表具
絵画・墨蹟・織物・修理・一般表具一式
宗紋襖紙・御殿引手販売元

こう えつ あん
浩悦庵

古文化財保存修理研究所 有限会社 矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通丸太町上る今薬屋町 318 番地
TEL(075)254-6021 (代)・FAX(075)254-6022
東京営業所 TEL (042)442-0177 E-mail:tokyo@koetsuan.com

<http://www.koetsuan.com> E-mail:office@koetsuan.com

なが——い、おつきあい。



貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する…
京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行

京都銀行

<http://www.kyotobank.co.jp/>

大切な資産を、ご家族へ確実につなぐために。
生前贈与や万一の備えが簡単にできる三菱UFJ信託銀行の商品を
どうぞご活用ください。

元本保証・管理手数料無料

相続の準備に、簡単・確実な方法があります。



遺年贈与信託
「おくるしあわせ」



教育資金贈与信託
「まごよろこぶ」



相続型信託
「ずっと安心信託」

資料請求または
商品のご案内はこちら

0120-06-4087
ご利用時間 / 平日・土・日
9:00~17:00(祝日等を除く)

MUFG 三菱UFJ信託銀行 京都支店 お申込みはこちら 電話受付/平日9:00~17:00(土・日・祝日等を除く)
TEL. 075-211-7161 京都府京都市下京区西多摩通高倉東入立売中之町85



鮎割烹
たつみほし

祇園 白川 榮橋畔
静かな佇まいに
せせらぎを聴く

〒605-0084
京都府京都市東山区八坂新地清本町371番地4
電話 (075) 531-1184



先人たちの賜物を伝えていく仕事。

デジタル再製画「伝匠美」 www.dnp.co.jp/denshoubi/

DNP

大日本印刷株式会社 www.dnp.co.jp

京の老舗



着実に、一步一步。

皆さまのお役に立てる、
コインパーキング。

キョウテク株式会社

本社

TEL 075-415-0100 FAX 075-415-0089
〒603-8143 京都市北区小山上総町10番地1キョウテク北大路ビル2F

抹茶

全国並びに関西茶品評会第一位
自園茶農林水産大臣賞30回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶
まんねんのみどり
萬年乃明草

御薄茶
じょう
常光



大本山相国寺御用達

宇治 久小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地
お問い合わせ(0774)200909
・シエールル京都伊勢丹店
地下一階銘茶コーナー
・西洞院店 茶房「元庵」水曜休営業
京都市中京区西洞院通御池下ル
電話(075)2230909
「お取り扱い」全国有名茶店・茶道具店
www.marukyu-koyamaen.co.jp

● 編集後記 ●

◇本派ご尊宿、並びに相国会会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。『円明』第105号をお届けいたします。昨年も9月の関東から東北地方での集中豪雨による河川決壊被害をはじめとし、各地で天災に見舞われました。年々、地球規模の気候変動を感じるようになり、また防災に関する認識も個々人で高めておかねばならないと感じます。被災された関係各位におかれましては、あらためてお見舞い申し上げます次第です。

◇一昨年より始まった臨済禅師1150年・白隠禅師250年両遠諱^{おんき}関連行事も、本年3月に東福寺で行われる「雲衲報恩撰心」遠諱大法要、4月から5月は京都国立博物館、10月から11月は東京国立博物館でそれぞれ開催される『禅』-心をかたち-の記念展覧会、そして9月上旬の「日中合同法要訪中団」による臨済寺訪問で一連の関連記念行事に一区切りがつくこととなります。また、4月から5月の展覧会中には、京都の臨済宗各寺院が特別拝観を行うことも決まりました。引き続き臨済宗黄檗宗連合各派合議所と相国寺は、各行事、法要などに協力して参りますので、関連ページも合わせてご覧下さい。

◇巻頭カラーをはじめ本文でも報告がありましたように、昨年11月16日に相国寺東京別院の「方丈・客殿落慶法要」が無事に執り行われました。これで寺としての面目を正式に整えることが出来、これまでの坐禅会をはじめ、布教伝道等の活動場所としての利用が期待されます。

◇連載して頂いております小林玄徳老大師の「仏道定款」をはじめ、東京別院の落慶報告記事、そして一昨年より連載していただき最終回を迎えた立畠敦子氏による「観音懺法会を彩るもの」などご寄稿頂きました諸氏には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。有難うございました。

◇厳寒の節、ご自愛いただきますと共に、各位におかれましては法幸多き一年になるよう祈念いたします。本年も相国寺派宗務本所、相国会本部を何卒よろしく申し上げます次第です。

(矢野謙堂 記)

えん みょう
円明 平成28年正月号(第105号)
平成28年1月1日発行(年2回)

編集/相国寺派宗務本所 教学部

発行所/大本山相国寺・相国会本部

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL075-231-0301 FAX075-212-3591
URL <http://www.shokoku-ji.jp> E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)

制作・印刷/ヨシダ印刷株式会社 カット/BUN



『円明』誌は、環境にやさしい「水なし印刷」「Non-VOCインキ」で印刷しています。

相国寺御用達 北山金閣寺御用達 東山銀閣寺御用達



享保十一年創業 清酒「五紋神蔵」醸造元
松井酒造株式会社

京都市左京区吉田河原町1の6 電話 075 (771) 0246

www.mizusawa-inc.co.jp
相国寺
東京別院
施工

水澤工務店 東京都江東区木場5丁目6番地1号 TEL 03-3641-7111

50回
記念

京の冬の旅

禪

-ZEN-

非公開文化財特別公開 秘められた京の美をたずねて

50回記念「京の冬の旅」のテーマは「禪—ZEN—」〜禅寺の美 日本文化の美〜。平成28年が、臨済宗を開いた臨済禅師の1150年遠諱にあたることにちなみ、日本の文化・芸術に大きな影響を与えた禅宗寺院を中心に、普段は見学できない庭園、仏像、襖絵、建築など様々な文化財が期間限定で特別公開されます。

◆公開期間 平成28年1月9日(土)〜3月18日(金)

*一部公開期間が異なります。詳しくは、京都市観光協会にお問い合わせください。

◆公開時間 午前10時〜午後4時(受付終了)

*東寺五重塔は、午前9時〜午後4時(受付終了)
*東寺灌頂院は、午前9時30分〜午後4時(受付終了)

◆料金 一ヶ所 600円(いずれも団体割引あり) *東寺五重塔(通常公開部分含む)は800円

◆お問い合わせ 京都市観光協会

(午前9時〜午後5時/12月29日〜1月3日は休み)
*TEL(075)75217070 <http://www.kyokanko.or.jp>

法要や悪天候等、都合により拝観できない日や時間帯が生じる場合があります。

最新の情報は京都市観光協会ホームページで随時更新 <http://www.kyokanko.or.jp/hyuu2015/oshirase.html>

※情報更新日以降の拝観休止・変更については、お電話でご確認ください。

相国寺 法堂・方丈

京の冬の旅 法堂は4年ぶり、方丈は10年ぶりの公開

*1月15日(金)、2月15日(月)は、午前11時30分〜の公開。
2月25日(木)〜28日(日)は、拝観休止。

京都駅から地下鉄烏丸線「今出川駅」下車、①番出口から徒歩約5分

相国寺 養源院

京の冬の旅初公開
夢のお告げで発見された秘仏



京都駅から地下鉄烏丸線「今出川駅」下車、①番出口から徒歩約4分

毘沙門天像

京の冬の旅初公開

十刹の一つに数えられた
相国寺の山外塔頭



真如寺

京都駅から市バス50・101・205系統「北野白梅町」下車、徒歩約8分
京福電車「等持院駅」下車、徒歩約5分

法堂

相国寺派の他に12カ寺が公開されます。

- | | | | |
|-------|-----|-----|-----|
| 南禅寺 | 天授庵 | 大徳寺 | 芳春院 |
| 建仁寺 | 開山堂 | 妙心寺 | 玉鳳院 |
| 六道珍皇寺 | | 妙心寺 | 靈雲院 |
| 東福寺 | 三門 | 妙心寺 | 天球院 |
| 東福寺 | 即宗院 | 東寺 | 五重塔 |
| 大徳寺 | 本坊 | 東寺 | 灌頂院 |

相国寺 長得院

京の冬の旅初公開

足利將軍の菩提寺
岸派の水墨障壁画



京都駅から地下鉄烏丸線「今出川駅」下車、①番出口から徒歩約7分

水辺虎図

訪中団のご案内

本年は、宗祖臨濟義玄禪師1150年ならびに白隠慧鶴禪師250年の遠諱^{おんき}の年です。平成28年9月6日(火)から訪中団を組み、中国河北省石家荘^{せつかそう}の臨濟寺を訪れ、日中合同の法要(9月7日)を厳修致します。日本からもこの法要に出頭するべく、臨濟宗黄檗宗各派でそれぞれ参加募集が行われる予定です。私ども相国寺派でも有馬頼底管長猥下を団長に、法要に参加します。

さらに相国寺派ではこの法要終了後に単独で、去る平成4年に日中佛教寺院で史上初の友好寺院締結を結んだ「大相国寺」^{だいしょうこくじ}を13年振りに表敬訪問する予定です(旅行期間は、計5日間の予定)。

つきましては、この得難い機会に相国寺派ご尊宿方、檀信徒の皆様^{だんじゆ}に法縁を結んで頂きたく、中国訪中旅行のご案内をいたします。

尚、今回は各派合同で参加人数も多くなることが予想されます。相国寺派では参加人数を30~35人程度とし、先着順で申し込みを受け付ける予定です。どうか奮ってご参加下さいます様、お願い申し上げます。

※募集の要項は、詳細が決まり次第、本派各寺院宛に直送の予定です。

相国寺

臨濟禪師 1150年・白隠禪師 250年遠諱記念

春の京都禅寺一斉拝観

平成28年4月12日(火)
~5月22日(日)
<http://www.zendera.info>

禅寺六十ヶ寺
一斉公開!



禅 -いまを生きる-

この一斉拝観は、京都国立博物館で開催される特別展「禅 一心をかたちに」(平成28年4月12日~5月22日)にあわせて、各派本山をはじめ約60ヶ寺にて、通常非公開の寺院や寺宝の特別公開、坐禅会や写経体験・法話など、期間中に特別な催しが一挙に開催されます。期間中には、対象寺院にて*スタンプラリーを実施予定です。

*スタンプが1つでも押された用紙を京都国立博物館にお持ちいただくと、特別展「禅-心をかたちに-」の割引チケットをお求めいただけます。その他、集めたスタンプ数によって、禅関連グッズを抽選でプレゼントさせていただきます。詳しくはHPにて!

〈本派拝観寺院〉

相国寺(上京区) 法堂・方丈の特別公開 拝観料500円

慈照寺(左京区) 本堂・東求堂・弄清亭を特別公開 拝観料1,000円

真如寺(北区) 特別公開 拝観料500円



京都の拝観寺院情報をスマホアプリにて提供!
好評ダウンロード中!(Android, iPhone版)

*対象箇所により、公開期間・内容などが異なります。詳細はホームページにてご確認ください。

(主催)

臨濟宗黄檗宗連合各派会議所
公益財団法人禅文化研究所
公益社団法人京都市観光協会

お問い合わせ先・禅文化研究所

Tel: 075-811-5189 Fax: 075-811-1432

〒604-8456 京都市中京区西ノ京番ノ内町8-1 花園大学内
<http://www.zenbunka.or.jp> info@zenbunka.or.jp

相国寺 春の特別拝観

京都今出川
鳴き龍の寺

平成28年3月24日(木)～6月4日(土) 拝観時間：午前10時～午後4時

3月24日～4月11日と5月23日～6月4日は

拝観場所：法堂・方丈・浴室

拝観料：一般・大学生800円／65才以上・中高生700円

※団体割引有り ※法堂・行事のため予告なく拝観休止または拝観場所・拝観時間を変更することがあります。

お問い合わせは 相国寺 Tel(075)231-0301まで

4月12日～5月22日は

拝観場所：法堂・方丈

拝観料：大人500円／小学生250円

臨済宗黄檗宗連合各派合議所・禅文化研究所・京都市観光協会主催
お問い合わせは 京都市観光協会 Tel(075)752-7070まで



法堂内部



浴室

裏方丈庭園

宝物
拝見



若松猿図

吉村孝敬筆

慈照寺藏 江戸時代

春の山を、のんびり楽しむ猿の親子。傍らでは若松を引き抜く小猿。いたずらの最中に突然蜂が飛んできた。びっくり仰天の小猿と、蜂を睨み付ける親猿。後ろの親猿は「毛づくろい」に夢中で気が付かないようである。三匹の様々な表情が面白い。円山派ではよく猿が描かれている。人に近いため、心理や行動がわかりやすいところから、多様な構図がとりやすかったのであろう。

本図は「小松引き」を題材としたものである。「小松引き」とは平安時代、貴族たちが正月初めの「子の日」に山へ出て、小さな松の木を引き抜いてくる長寿祈願の宮廷行事。現在、正月玄関に「根付きの松」を飾るのは、この名残とされている。吉村孝敬(一七六九～一八三六)は京都の画人。円山応挙晩年の弟子。



岩澤展前期テープカット



岩澤展前期展示風景



岩澤展前期展示風景



岩澤展後期は「華やかな小宇宙」と題された椿や桔梗、菊、桜、ぐみ等の素描。「風景との対話」と題された富士山の素描。また六甲山や鷲羽山、桜島等を旅した時のスケッチ。故郷大分県の景勝地耶馬溪、自らのアトリエのあった京北町のスケッチ類他。他所では目に触れない画伯の作品も展示中でございます。ぜひ御清覧下さいませ。

「岩澤重夫展・後期」

鹿苑寺（金閣）客殿障壁画特別展示中

平成28年3月21日まで開催

次期展覧予定

「森田りえ子展」

平成28年4月5日(火)～6月19日(日)

森田りえ子画伯は神戸生まれ。現在最も注目されている日本画家の一人です。京都市立芸術大学 美術学部 日本画科本科卒業、同日本画専攻科修了。京都府文化賞奨励賞・京都市芸術新人賞・京都府文化賞功労賞等多数の賞を受賞。四季を彩る花鳥画や、京都の伝統文化を受け継ぐ舞妓、エキゾチックな女性像等を卓越した描写力で表現。平成十九年には鹿苑寺方丈杉戸絵、同客殿天井画を作成されておられます。この度この御縁で、承天閣に於いて画伯の作品を一堂に展観するはこびとなりました。皆様の御高覧をお待ちしております。



「粧」 平成14年 森田りえ子筆



「秋華」 平成22年 森田りえ子筆

承天閣事務局

第四教区長福寺 第二十二世 武田典英新住職晋山

平成二十七年十一月八日



長福寺へ向かう新住職一行



山門に到着



「晋山の偈」を唱える新住職



晋山式記念撮影

(教区だより79ページなどを参照)

とわ 永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

株式会社 石 杖 都 みやこ

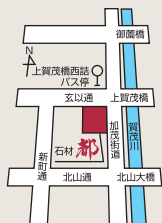


代表 坪田 忠男

年中無休 営業時間/AM8:30~PM6:00 (日曜日PM5:00まで)

本社：〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地 ヨクソ ヨイイン
(上賀茂橋西詰バス停前) 電話(075)491-4114(代)
工場：京都市北区上賀茂神山 389 番 24 ヨクソ ヨイイン
(洛北病院バス停前) 電話(075)702-2440
夜間：京都市左京区岩倉南池田町 117 電話(075)702-8814

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。



心のすがた

閑日雖冬亦自長 (陸放翁)

かんじつ 閑日冬と雖も、またおのすか 亦自ら長し。

いせい 冬の短き日といえども、またおのすか 閑暇であれば
長き心地がするものだ。

撮影◎教学部(相国寺法堂夕景)